



YES 通信



〒819-1116 糸島市前原中央2-2-22波多江ビル2F 電話 321-4119 2019年4月号

最後は日ごろの行ないが自分を助ける!

以前、働いてくれていた元講師から電話があり、食事に行ってきた。食事をした二人は塾でも主任という大役を頑張ってくれた後、今は二人とも同じ糸島高校の教員をしています。しかも、二人とも偶然にも今年1年生を担当するという凄いことが起こっています(笑)

この元講師は、一人が32歳もう一人が30歳で高校卒業してから働いてくれたので、出会ってから10年以上が過ぎていたことに、お互い時間が過ぎるのは早いなあと当時を懐かしむ話で盛り上がりました。

このような機会が持てることに本当に感謝すると同時に、また、みんなを集めて8月に会おうということになり、今から8月を楽しみにしています。

話しの中で、先ず真っ先に上がったのが今まで何回も書いてきましたが、大学受験が本当に難しくなってきたことに関する話題です。

滑り止めで受ける大学さえ簡単には合格できなくなっているとのこと。この傾向は来年も続くというのが大方のみかたのようです。滑り止めの大学に不合格になる人もいたようで、本当に厳しい大学受験だったそうです。現役の先生の声を聞けたことは本当に良かったです。

また、一番興味を持ったのが生活指導に関して

した。ついこの前まで学生だった彼らにも、今の若者はここが違うと思わせるものがあるようです。今は、昔のように怒ったりするわけもいかず。学校の先生の大変さが伝わってくるのと同時に、そのような中で、一生懸命生徒のために頑張ってくれている若者を見て本当に頼もしく思いました。

子供の生活指導に関しては、先月、私は佐世保で小学校の校長先生をしていた親戚の言葉を思い出しました。「このままだと先生のなり手がなくなると」という言葉です。学校が勉強を教えるところから生活指導をするところに変りつつあるというのはよく耳にするのですが、現場の第一線をやっている方の言葉の重みは相当なものでした。この一番の問題は先生の体罰や過度な指導を、マスコミが過度に取り上げていることもあるかもしれないが、根本は家庭でのしつけの問題と学校に対する考え方の問題だと思っています。

今、学校では厳しい躰は出来ませぬ。本当は、その分家庭でしっかりと躰をしないとイケないのではないのでしょうか。学校にすべてを求めるのではなく、家でできることは家でしっかりとやるべきことが重要だと思います。

家でも厳しく躰ない、学校でも厳しく躰ない、だから社会に出てからすくすく打たれ弱くなっているの

ではないか?という話になったのですが、それも一理あるのではないかと思っています。

そのような環境の中でも、しっかりと躰られた学生もいて、そのような生徒がなぜいいのか?という話になりました。

部活関連の話が多かったのですが、その中で興味深かったのが、躰の良いきちんとしている生徒は、普段ちゃんとしたことをやっているんで、プリーディングミスをして周りのみんなが助けてくれるのだそうです。でも、躰の出来ていない生徒がミスをする「だからミスをするんだ」と一気にそこで日ごろのみんなの不満が爆発するそうです。

この話を聞いて改めて本当にそうだなあと思いました。厳しい練習をしていればなおさらそんな話になるだろうなあ、自分の過去を思い出したりしながら、やはり日ごろの行ないというのは重要だなあと思いました。

以前、YES通信に大谷選手が運を味方にするためにあいさつや掃除、道具の手入れ等をしっかりとやるという目標を立てていたことを書きましたが、まさに日ごろの行ないを良くするかどうかで、ミスした時の周りのメンバーの態度が大きく違ったりするのではないでしょうか。

良いことが起こった時に「日ごろの行ないがよくなったからだ」と冗談交じりに言う人がいますが、日ごろの行ないというのは本当に悔れないと再認識しました。まずは自分の日ごろの行ないを見直したいです。

やる気相談室

語彙力

速聴読で語彙力がかなり伸びてきました!

先日、第2回目の語彙力

診断テストを実施し、その結果が戻ってきました。速聴読では半年に一度語彙力診断テストを実施して語彙力が増えているのかどうか測定しています。今回は初めて前回との比較が出来るということで結果が出るまで期待と不安で一杯でした。

その結果は、なんと、思った以上に良かったので正直びっくりしています。昨年の夏に1回目の語彙力診断テスト受験していた生徒33名の平均が前回、49%だったのに対し今回は75%と26%もアップしていたのです。心の中でガッツポーズをしたのは言うまでもありません(笑)

速聴読というあまり馴染みのないプログラムに共感いただき受講していただいている以上、その生徒さん達に何とかが良い結果

を出してあげたいと講師達も一生懸命取り組んでくれた結果がでて本当に嬉しく思っています。ただ、2回のテストで手放しに喜ぶわけにはいけないので、今後もしっかりとした指導をして、さらに良くなるように磨きをかけていきたいと考えています。

速聴読を受講している生徒の保護者様の中には、「小学校の国語のテストで100点を良く取ってやるようになってきた。」とか、中には「全国学力テストの国語の結果が満点だった」という声もありました。今回の中学生の統一模試でも自己採点ではありますが、前回、国語の点数が20点だった生徒が61点になっていたので、模試の結果が戻ってくるのが楽しみです。

しかし、全員が上がっているわけではなく、中には上がっていない生徒も若干ですが存在しています。授業態度や取り組み姿勢を見ているとその理由がある程度イメージできるのですが、「こつこつと地道に速聴読のプログラムに取り組みは語彙力がアップするのを考えています。」

私の14年の塾経験で、知能指数を平たく言うところ「正確に早く出来る能力」だと言えます。ピアノやそろばんが良いと言われているのもそのためです。ちなみに、うちの九大生もピアノかそろばんをやっている先生が非常に多いのも事実です。

でも、ピアノやそろばんをやっている人がみんな偏差値の高い大学に合格するかどうかとそうではありません。それでは何が偏差値に影響するのかということそれが語彙力なのです。ある意味、偏差値は語彙力で決まると言っても過言ではないのです。

九大生はみんな高い語彙力を有していますが、語彙力の低いような九大生もたまにいます。語彙力の低い九大生でも専門分野の語彙力は非常に高いものがあります。

語彙力を高めるためには、読書の習慣をつけることやいろいろなことに興味を持つ習慣を身に付けることが重要になります。速聴読を受講している生徒が中学生用の歴史のマンガや理科のマンガを読み漁っている姿を見るととても嬉しくなっています。

速聴読を受講している生徒が中学生用の歴史のマンガや理科のマンガを読み漁っている姿を見るととても嬉しくなっています。

立川 談四楼 著

ファイティング寿限無

書籍紹介



北海道にいわた書店という大人気の本屋さんがあります。その本屋さんは1万円ですその人にピッタリ合った本をお勧めしてくれることで有名になった本屋さんです。そのいわた書店の店長さんお勧めの本を読んでみたらとても面白かったので、その2冊目でこの本に出会いました。この主人公の生き方や著者である立川談四楼の生き方はこれからの若者にも是非参考にしたいと思えます。立川談四楼は噺家でありながら作家としても活躍なさっています。これからの時代はダブルワークが当たり前の時代になると言われていますがまさにダブルワークを実践なさっている方が書いたダブルワークの本なのです。主人公は噺家を志す若者なのですが、師匠から「落語が上手くなることよりも売れることを考えろ」そのためには何か落語以外のことで目立つことが大事なのだ。そんなことから始めたボクシングがあればあれよあれよという間に……

ネタバレしたらいけないので内容はこの辺までにしておきますが、いわた書店の店長おすすめの本は1冊目の「チーム」という堂場瞬一氏の本もとても面白かったので3冊目もすでに買っています(^_^) /

最近、私も速聴読で読書速度が速くなってきたので本を読むのが楽しいです。この本は読みやすいので速聴読している生徒さんも読んでくれると嬉しいです。この本を読んで談四楼の落語も聞きたくなりました。;